

会 議 名	第4回狭山市協働推進委員会
開 催 日 時	平成31年1月24日(木) 10時30分～11時30分
会 場	狭山市役所6階 602会議室
出 席 者	狭山市協働推進委員 9名(欠席1名)
議 題	<p>1. 開 会</p> <p>2. 委員長あいさつ</p> <p>3. 議 題</p> <p>(1) 平成30年度提案型協働事業の進捗状況について</p> <p>(2) 平成31年度行政提案型協働事業テーマの報告</p> <p>(3) その他</p> <p>4. 閉 会</p>
協議概要	<p>1. 開 会</p> <p>2. 委員長あいさつ</p> <p>3. 議 題</p> <p>(1) 平成30年度提案型協働事業の進捗状況について</p> <p>事務局より平成30年度提案型協働事業の進捗状況について報告 (資料No. 1、資料No. 2参照)</p> <p><委員からの意見></p> <ul style="list-style-type: none"> • 犯罪被害者支援事業の講演会に参加した。 <p>テーマが重たいので参加者がどのくらい集まるのか心配していたが、ホール一杯の参加者に感激した。</p> <p>誰しも犯罪の被害者になる可能性があり、関心の高さを感じた。</p> <p>車椅子ビリヤード事業も見学に行った。まだそんなに周知がされていないと思ったが、こういった事業を通じて障害者の存在が認知され、新しい何かが出まれるきっかけに事業が貢献していると感じた。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 幾つかの事業の見学をした。 <p>英語カフェ事業は、前半はネイティブの参加があったが、後半は日本人の</p>

みの参加で参加者の固定化が見られた。新しく来る方には少しハードルが高いと感じた。そういった点を改善できればよりよい事業になるのではないか。

車椅子ビリヤード事業は、支援する人を増やすことで障害者の参加がもっと促されるのではと感じた。

・犯罪被害者等支援事業は自分も参加したが、参加者が非常に多かった。ただ、入場できない方もいた。事前申し込み（先着順）にするなど参加者向けに工夫が必要なのでは？

体験型防災学習事業については、最初は和やかな雰囲気の中で行われたが、被災地の映像を視聴する時間は雰囲気が変わり、真剣な表情で見入っていた。参加した人が楽しみつつ学べて良かったのではないか。若い方、特にリーダーとなる方に参加していただくのが課題。

・犯罪被害者等支援事業の代表の方は、傾聴講座に参加していた。そういった学びを生かせる場があってよかった。

また、混乱を避ける為に、事前に人数を把握する必要があると感じた。

英語カフェ事業は参加者の雰囲気がよく、英語が得意な人が多かった。確かに初心者は入りづらいが、雰囲気としては楽しそうなのでよいのでは？自宅に近い南小近くの畑でも活動している。今度見学に行きたい。

・パンフレットの写真が良い。（「狭山子育てガイドブックを見て）市民感覚が取り入れられていていいものができたと感じている。

・市民の方と担当者とのキャッチボールが大変だが、いいものができている。市民の方と職員の協働が進んでいると感じている。

・車椅子ビリヤード事業は、障害者の方でも自分の体を使えてできる良い取り組みだと感じた。ぜひ続けていただきたい。

・今年度で補助期間が終わる事業がある。来年度以降、市の補助金が無くな

る中で活動を次にどうつなげるかが課題。市がどう関わっていけるのか？

市民と行政の協働でここまで来たものをどう続けていくか？継続する方法を考えてほしい。

・体験型防災学習事業は、ボランティアの急な不参加などもあり、大変だったと思うが、反省を生かしてほしい。

犯罪被害者等支援事業は、講演会には入場できなかったが、後日ケーブルテレビで見る事ができて内容を知る事ができた。

埼玉の支援センターの方が来庁した際に、オリーブの会のような犯罪被害者支援の会は県内では初めての団体であり、こういった事業も県内では初の取り組みであると感謝をされていた。

・犯罪被害者等支援事業については、主催者が勇気を持って事業をやられていると思う。協働事業でやっていることに意義があるが、今後どういう形で展開するか（支援するか）？それが課題である。

活動を続ける事が被害者を癒す意味もある。何かあれば頼りにしてもらおう存在であり続けてほしい。

・（犯罪被害者支援を念頭に）収益と関りのない活動をどう続けるか、支援を考えてほしい。

昨日、市民大学サミットがあり、他市の市民大学との交流の中で、公設公営や、民間など多種多様な形での運営があるが、市民の力を大事にしてほしい。

（２）平成 31 年度行政提案型協働事業テーマ報告

（資料No. 3、資料No. 4 参照）

今年度においても、10月から12月にかけて、行政提案型協働事業のテーマを募集し、3件の行政提案型協働事業が提案されている。

①駅前発！楽しく学ぶ自分磨き講座（社会教育課）

②狭山市防災マップ多言語化事業（危機管理課）

③「協働」をより身近に！市民と市職員参加型ワークショップ研修
（協働自治推進課）

<委員からの意見>

・②について、外国語を翻訳する事も大事だが、やさしい日本語の表記も大切である。子どもに教えるような感覚で、シンプルで見ただけで分かるように作る工夫も必要である。

→相談した団体からも、やさしい日本語表記を重視してほしいと提案されている。危機管理課にもその点を配慮して作成するようお願いしている。

・英語圏の方よりタガログ語（フィリピン）の需要がある。需要の多い言語への対応は？

→データを調査したら、英語圏より中国、フィリピン（タガログ）、ベトナム圏の住民が多い。今回は、データを参考に翻訳する言語にタガログ語を加えた。やさしい日本語表記も取り入れ、分かりやすいものにしていければと考えている。

(3) その他

今後の協働について（追加資料参照）

4月1日に協働によるまちづくり条例が施行される。これからは市ができる事、どのような課題解決の手法があるのか、それを作るのが来年度の最大の課題と感じている。

市民検討委員会からの提言の中から（協働のまちづくりの）仕組み作りについて意見をいただいている。

人材（ヒト）の部分でも力を貸していただきたいし、新しい人材（想いを持った）を発掘するところが課題と認識している。

お金をかけず拠点（モノ）の提供ができないか？拠点として空家をうまく活用できないか？

助成金（カネ）だけでなく、自らお金を生み出すような仕組みができないか？「さやピズ」と連携してサポートできないか？市民の方や、事業者の方と協働して考えて生きたい。

4. 閉 会

<p>配布資料</p>	<p>第4回狭山市協働推進委員会 次第</p> <p>資料1 平成30年度提案型協働事業一覧</p> <p>資料2 平成30年度提案型協働事中間報告書(6月~8月)(9月~11月)</p> <p>資料3 平成31年度行政提案型協働事業テーマ一覧</p> <p>資料4 協働提案シート</p> <p>追加資料 事業の様子</p> <p>追加資料 協働によるまちづくり意見交換会</p> <p>追加資料 狭山市協働によるまちづくり条例</p>
<p>事務局</p>	<p>協働自治推進課長</p> <p>協働自治推進担当 主幹2名 主事 以上4名</p>